

令和2年度 第3回役員会議事録

日時 令和2年11月20日（金） 10:25～10:55
場所 本部棟2階 小会議室1
出席者 沖理事長、柴田副理事長、松田理事、高橋理事、末岡理事 [5名/5名]
〔監事〕大土監事 [1名/2名]
(事務局) 小西次長、鈴木課長、長家課長、中島経理班長、河合主幹、田淵総務班長、齋藤主幹

1 開会

2 議事録の確認

令和2年度第2回（令和2年9月24日開催）の議事録案は承認された。

3 議題

[1] 審議事項

(1) 令和2年度補正予算（第2回）（案）について

事務局から、資料1により説明があり、原案どおり承認された。

[2] 報告事項

(1) 「吉備の杜」創造戦略プロジェクトについて

沖理事長から、資料2により簡単に報告があった。

【質疑応答等】

(問) 初年度に当たる本年度補正予算の額(19,495千円)で、どのような事業を行うのか。

(答) 本年度は実質的には準備期間である。事務職員や、本学と企業との調整を行うプログラムディレクターの人件費が一番多い。

(問) 結構な額である。どういう体制で、何のための人の手当てなのか。

(答) 文部科学省との対応、学内・学外外の体制を作ることが必要となる。なお、文科省に提出した調書の計画を実行しているか、きつく判断されるので大変である。来年の4月から軌道に乗れば良いが、初めてなので一番大変な時期と感じている。

(問) スケジュール的には新年度からになるのか。

(答) 「すぐにでも」と考えており、12、1月には体制を整え動かないといけない。

(2) 教員の採用等について

事務局から、資料3により報告があった。

[3] その他

【質疑応答等】

(問) 質問だが、県内の大学生から「コロナ禍で授業日数や授業時間が足りないが、授業料は下がらず、施設使用料も下がらない。おかしいのではないか。」との相談があるが、県立大学の実態はどうか。そのような質問はないのか。

- (答) 本学では授業時間は減っていない。方法については対面授業ができないのでオンラインやオンデマンドとなっている。そのような問い合わせについては聞いていない。
- 大学としては、教育の質保証が求められ、決して落としてはならないと考えている。また、コロナ禍で学生が不安を抱えているので支援や相談体制にしっかり取り組んでいる。
- (問) 現在、リモートで授業を行っているとのことだが、今後も併用した授業内容を行っていく予定なのか。
- (答) 今後、数年間は完全にリモートが無くなることはなく、ハイブリッド授業を利用して教育効果を落とさず、感染拡大を起こさないようにしていく必要があると認識している。
- (問) 民間ではリモートワークを取り入れている。交通費は不要だが、自宅の電気代は必要。オンライン授業を受ける学生に対して経費面での支援があった方が良いのでは。
- (答) 特に教育機関にはメリットとデメリットの両方があり、新しいスタイルにあった教育としてハイブリッド型しかないと思う。また、学生もそうだが、教員も大変である。3学部でカラーが違うので、各学部学科に合わせた最適な教育を現場の声を聞きながら行う必要がある。
- (意見) 私立大学では学生によってはリモート(授業)で生き生きしているらしい。だが、社会性を身に付けるのは大変だと思う。
- ハイブリッド型がこれからの方法と思う。